

団体名	海田町	所 属	教育委員会	他団体等との連携	織田幹雄スポーツ振興会等
連絡先	生涯学習課 (082)823-9217				

取組事例名	学校教育と社会教育の連携による体力向上と「織田幹雄」の継承	取組期間	平成21年～
--------------	-------------------------------	-------------	--------

取組の概要 ～ 学校教育と社会教育の連携による次世代育成と偉業の継承

日本人初のオリンピック金メダリスト織田幹雄氏の生誕の地である海田町では、様々な住民活動団体が、小中学生を対象とした陸上競技をはじめとする各種スポーツ大会などを主体的に実施しており、学校教育がそうした社会教育活動と連携・協働して、次世代を担う小中学生の体力向上を目指している。

また、学校教育と社会教育の連携により、町の名誉町民でもあり、町の重要な宝である「織田幹雄」を継承するための各種事業に取り組んでいる。

取組の背景 ～ 小中学生の体力テストの結果とまちの重要な資源としての「織田幹雄」

1 小中学生の体力向上

小中学生を対象とする「体力・運動能力調査」において、町内小中学校のほぼ全ての学年で県内平均を下回る状況であり、小中学生の体力向上が課題であった。

2 織田幹雄氏を核とするまちづくりの必要性

織田幹雄氏がオリンピックで日本人初の金メダルを獲得してから80年を超える年月が経過している中で、その偉業を後世に継承するとともに、重要な「町の資源」として再認識し、織田幹雄氏を一つの核としたまちづくりを展開していく必要がある。

取組のねらい ～ 「陸上大会と企画展示」の相乗効果及び「学校教育と社会教育」の相乗効果

1 陸上大会と企画展示の同時開催による偉業の継承

スポーツ活動である陸上大会と文化活動である企画展示を一体的に開催することで、相乗効果によって「織田幹雄」に対する意識向上を目指した。

2 学校教育と社会教育の連携による意識向上

学校教育における小中学生への体力向上施策に加え、「織田幹雄スポーツ振興会」等住民活動団体が主催する下記大会などを学校との協働により開催することによって、学校教育と社会教育の相乗効果による小中学生及び教師のスポーツに対する意識向上を目指した。

取組の具体的内容 ～ 学校教育と社会教育の協働による陸上大会と企画展の一体的な企画運営

織田幹雄氏が金メダルを獲得した日（8月2日）、競技（三段跳び）にちなみ、「織田幹雄スポーツ振興会」が、毎年8月の中旬に「走り幅跳び」と「走り高跳び」の講習会・記録会を開催している。平成25年度は、学校との連携をより一層深め、織田氏の貴重な遺品を展示する「トップアスリート展」を同時開催した。

<平成25年度>

1 織田幹雄スポーツ振興会主催「金メダルの日記念事業」ジャンプ&ジャンプ大会の開催

「子供たちにスポーツを好きになってもらいたい」という織田幹雄氏の生前のご意向を踏まえるとともに「次世代に織田幹雄を継承する」ことを目的として、講習会を重視した陸上大会を平成21年から開催している。

(1) 内容：「講習会」及び「記録会」

(2) 競技：「走り幅跳び」及び「走り高跳び」

2 町教育委員会主催「トップアスリート展」の学校での巡回展示

学校の協力を得て、上記陸上大会当日の開催を皮切りに、町内全小中学校において、織田幹雄氏ゆかりの品の巡回展示を行った。

実施内容： 織田幹雄氏のご子息から寄贈いただいた1928年アムステルダム大会優勝のディプロマ（オリンピックの賞状）を始めとする貴重な品々の町内全小中学校での巡回展示



取組を進めていく中での課題・問題点 ～ 意識向上の必要性

1 体力・運動能力調査結果

平成24年度の体力・運動能力調査結果において、小中学校のほぼ全ての学年において県平均を下回る状況であり、学校教育のみならず、「地域全体の課題」として、小中学生に運動に対する意識を持たせる必要があった。

2 経年による織田幹雄氏の認知度の低下

1928年に織田幹雄氏が金メダルを獲得してから86年もの年月が経過する中で、若年層を中心に、織田幹雄氏の偉業に対する意識が低下していた。

創意工夫した点 ～ 学校教育と社会教育の連携

1 社会教育との連携による体力向上

学校教育での取組に加え、小中学生の織田幹雄スポーツ振興会が主催するジャンプ&ジャンプ大会などの社会教育活動への参加を積極的に呼びかけるなど、学校教育と社会教育の連携に努めた。

2 学校と連携した企画展示

町出身アスリートの偉業や哲学を紹介する「トップアスリート展」を町教育委員会が主催しているが、従来型の会場を固定する形式ではなく、上記ジャンプ&ジャンプ大会との同時開催を皮切りに、全ての小中学校を巡回する形式で開催した。これにより、児童生徒に織田幹雄氏の偉業や哲学を幅広く伝えることができた。また、より効果的に実施するため、通常の展示はレプリカだが、参観日にあわせて実物を展示するなどの工夫をした。

取組の成果（効果） ～ 体力測定の結果及び意識の向上

1 平成25年度体力・運動能力調査結果

平成25年度の体力・運動能力調査結果は、ほぼ全ての学年で県平均を上回り、小学5年生男子の結果では平成24年度の県内21位から5位に上昇するなどの成果があった。これにより1中学校、2小学校が県教育奨励賞を受賞した。

2 「織田幹雄」に対する意識の向上

全ての小中学校において巡回展示をしたことにより、織田幹雄氏や「日本人初のオリンピック金メダル獲得」という偉業を改めて小中学生に伝えることができた。また、織田氏が残した数々の言葉やエピソードが学校教育の場で使われたり、現役の学生が出した陸上大会の記録と織田氏の同時期の記録の比較が行われるなど、学校側の「織田幹雄」に対する意識の向上も見られるようになった。

今後の展開 ～ 基本理念の確立と学校教育と社会教育の連携による地域での子育て

1 陸上大会について

より多くの小中学生が参加できるよう専門性の低い競技を導入する。

2 トップアスリート展について

より多くの方に織田幹雄氏の偉業を伝えるため、小中学校だけではなく、町内公共施設での巡回展示を実施する。

3 基本理念の確立

小中学生を含め広く町民に対して、郷土の誇りである織田幹雄氏の偉業を伝えるための活動を継続して行うことにより、本町のスポーツ振興に加え、広くまちづくりの基本的な理念を確立していく。

4 学校教育と社会教育の更なる連携

「教育」に求められるニーズが多様化、複雑化する中で、学校教育に加えて、社会教育との連携による「地域での子育て」の重要性が増している。例えば、学校教育において走り幅跳びやソフトボール投げなどの競技を児童生徒に指導するにあたり、その競技の要点を地域で活動するスポーツ団体のほうが、教職員に対して指導したり、直接地域の方が児童生徒に指導するなど、学校教育と社会教育のより一層の連携を目指していく。

他団体へのアドバイス ～ 学校教育を核とする社会教育との連携・協働の必要性

少子化が進む現状を踏まえると、小中学生の育成の基本である学校教育を核に、社会教育が連携・協働していく体制を作っていくことが必要だと考える。